

【事故例と試験例】（選定した試験の例）

【事故例２】電源コードの断線

製品例：手持ちドライヤー アイロン

ドライヤーを使用中、本体側電源コードの根元から火花が出て、服と下着を焦がして、胸に火傷を負った。

<<上記のような事故を防ぐには、>>

使用中に動かす電気製品は、長期使用により本体側電源コードの根元が断線しやすい。このため、電源コードの根元が長期間の通電状態の屈曲に耐える構造であるかを確認することをお勧めします。

【試験例】電源コードの屈曲試験

電気用品安全法の技術基準解釈別表第八では、運転中に動かすものでも無通電状態で2000回の屈曲試験のみが要求事項となっています。一方、JIS C 60335-1（家電機器）等では、通電状態で10000回の屈曲試験を行います。通電状態と無通電状態では、電源コードの芯線の温度が上がっている通電状態の方が断線しやすいことが考えられますので、長期使用を考慮した場合、JIS C 60335-1等の電源コードの屈曲試験により、通電状態の屈曲試験の確認ができます。中間スイッチやプラグの根本での断線に関する事故もありますので、同様に通電状態での屈曲試験の実施することをお勧めします。